

藤島の活褶曲とは何なのか 東西に圧縮され地下に断層

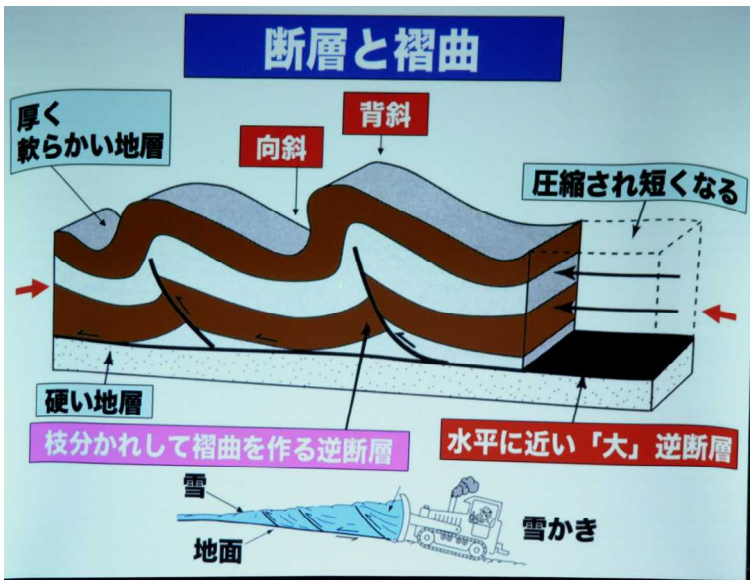


澤祥氏

上町町内会 (本間正実会長) の自主防災会で9日、澤祥・鶴岡工業高等専門学校教授を招いて「庄内の地震環境と地震災害の歴史」

東側から押す

澤氏は、「日本海の中にも山脈があり、地震が起きるたびに断層が動いて地面がずれ、海底が盛り上がり、佐渡島や青島、飛島などが海面に突出した。



(図・上) 地下の固い地盤の上の柔らかい表層が圧縮されて波のような皺になるのが褶曲。高くなった所が「背斜」で断層が生じる。(図・左) 藤島川に沿っている活褶曲。



陸地では、地震が起きるたびに出羽丘陵が高くなり、庄内平野との境目がハッキリしてきた。
3・11東日本大震災を起こした北米プレートは、年間10cmづつ東側から押し寄せてきており、地層が圧縮され地面に褶曲を生じ、地下の割れ目断層が大きな地震を起こす。
圧縮されて高くなったところが「背斜」で低くなったところが「向斜」。

藤島では液状化

さらに澤氏は、「特に藤島では液状化が避け

私の昭和 33

鈴木重雄 (88歳・八色木)

夫を戦陣に送る、豊栄・布川ムメエさんの思い

私は、戦争余間の項を書くにあたり、昭和56年発行の「藤島町戦没者追悼集」を読んだ。読み進む毎に胸が詰まり涙が出てくる。

この中で、豊栄・布川ムメエさん(長男幸治氏の戦陣に送る夫への思いを抜粋して紹介させていただきます。



(写真:1974(昭和49)年頃の布川ムメエさん)

夫にもとうとう赤紙が来たのです。

夫は33歳になって初めて軍服を着ることになった訳で、妻として何か可哀想な気持ちがありました。

家を出るとき、「母と子供を頼むよ」と2度も3度も言われましたが、私はただ「あとは心配しないで」と言うのがやっとでした。

軍隊に入ってからほとんど便りがなくて、どうしたのだろうか心配していたら、南方戦線にいたことが判りました。

ああやっぱり忙しくて便りも出せないのだと、月夜の晩など、月を拝んで夫の無事を祈ったものです。

もみじのような手を合わせて、「お父さん早く帰って」と頭を下げる子ども2人を抱きながらそれは真剣な気持ちでした。

しかし私たちの祈りも空しく、比島のルソン島で戦死したとの公報が、役場から伝えられたのです。

あの時の気持ちは、筆や言葉で表すことはできません。

ただ子供を抱きしめ姑と一緒に涙のある限り泣きました。...

尚、ムメエさんは、夫の弟が昭和18年6月戦死しており、また夫の戦死で、子ども2人が戦争で命を失った姑の胸の内はどうだったのでしょうか。

面は数メートルもズレるので、建築物は活断層を跨がないこと。

地震は東西に揺れるので、建物は東西に長方形なら地震に強く、南北に長く東西に短ければ揺れに弱い。

屋根が瓦で家の重心が高ければ地震に不利だ」と話しました。

建物は東西に長く

そして、「活断層の地

中仙道テクテク一人旅(その10) あの世の閻魔様は嘘つきが嫌い (新町 齋藤留治)

中仙道のとある宿場の民宿の女将さんの世間話によると、知人であるお寺の和尚さんが突然倒れて救急車で運ばれ、その後数日間意識が回復せずそのまま成仏してしまうのではないかと心配したそうだ。

幸いにして和尚さんは日頃の功德が閻魔様に届いたのか回復し元気になったさうである。

退院後、女将さんが和尚さんに会った時、和尚さんは「女将さん、俺、三途の川を見て来たよ、大きい川に長い橋が架かっておつてな、橋の袂には番人みたいな人がおつてこう語りかけたんだよ」と。

番人は「あなたは現世でまだやりたい事があるか、自分に恥じるようなことはしなかったか」と。

そこで和尚さんは「俺はまだ現世でやらなければならぬことがあるから橋を渡りたくない、申し訳ないが閻魔

様に頼んでくれないか」と答えた瞬間目が覚めたさうである。

真偽は判らないが、仏門にある和尚さんの話なので女将さんのすつかり信じ込んでいるような顔が微笑ましかつた。

さて、参議院選挙が終わった。

今回から投票年齢が引き下げられたが投票率は約50%ちよつと、過去4番目の低投票率で、ある新聞には大変憂慮すべき事態であると書いてあつた(投票の義務化で棄権すると罰金という国もある)。

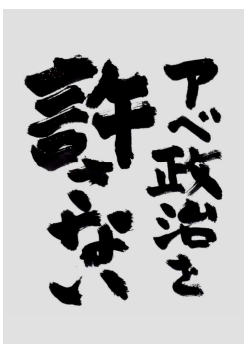
選挙では「この道しかない、まだ道半ば」とアベノミクス宣伝に徹したアベ首相、この新語に格別新しい内容は無く、朝日新聞に掲載されて語呂が良いことから広まったという事だが、国民はすつか



り騙されていると思えて仕方がない。

日本銀行が国債の山で一杯になる日がすぐそこまで来ているというし、政府の借金も膨らむばかり、求人が増えたと大ぼら吹いても非正規のみだし、社会保障も当てにならないではアベ政権を続けさせる意味は無いと警鐘を鳴らす経済学者も多い。

このままでは閻魔様もAさんが来た時抜く舌が多くて苦勞するに違いない。



知ってトクする認知症予防 『自己紹介ノート』を作る —しんぶん赤旗を読んで 青山崇

認知症予防
知ってトクする

本人の不安を軽くする

能力が落ちて、日常生活が支障をきたす認知症は、高齢者の健康と生活の質を大きく脅かす病気です。認知症の予防には、認知症のリスクを減らすことが大切です。『自己紹介ノート』は、認知症の予防に役立つツールです。

元気づちから自己紹介ノートを作ろう

- 自分はどうな人間か
- 生まれ故郷、育った環境
- 好きなこと、嫌いなこと(食べ物)
- 楽しかった思い出
- 介護される場合の希望

しんぶん赤旗日曜版 6月5日号から

しんぶん赤旗日曜版連載である。今回は9回目(6月5日号)、「私たちをあるがままに見て、まず、病気ではなく人間として見てほしい。その後、できる限りの能力を発揮し続けられるように助けてほしい」と認知症の人が言っているとのこと。症状が進行してもすべての記憶がなくなる

わけではない。ある施設で、おばあさんが、縫い目が細かく均等な雑巾を何枚も縫い、学校に寄付したら評判になった。またこんな話も。便秘の夫に予防のココナツオイルをみそ汁に入れたら、油が浮いていると言つて食べないのよと嬉しそうに奥さんが話したというのです。油を認知した夫の能力を喜んだ奥さんに、認知症介護の原点はこれだと教えられたという。

そして、患者をよく



年金額裁判

知り、能力を生かした介護をするため、元気づちになうちに『自己紹介ノート』を作っておくことを勧めている。内容は、①自分はどんな人間か②生まれ故郷、育った環境③好きなこと、嫌いなこと(食べ物など)④楽しかった思い出⑤介護される場合の希望などである。

どんな状態でも、まず「人間」として扱うこと。物・畜生のように見えることもあるが…。

がこの裁判である。

▲訴えたのは去年27年6月5日で、今日が第1回目の裁判だ。なぜこんなに時間が掛つたかと言うと、「処分の取り消し」となると東北6県が仙台で裁判する「移送」という手を、国が考えたというのだ。

▲これじゃ遠くて証言も傍聴も容易でない。地方でやれる方法はないかと、その手続きで時間が掛つたものだと。

▲2人が証言台に立ち、年金生活者の暮らしの実態・即ち月5〜6万円の年金から削られる不当性が語られ、原告代理人として佐藤欣哉弁護士(余目出身)からは、この件は憲法12条・25条・29条に違反することを国自ら行うとしていいる。裁判所は大いに留意されて進行を図っていたのだと結び、次回は9月14日同じ時間で開かれることになった。閉めて40分位の処か。(石川)

7月6日山形地方裁判所で裁判を傍聴してきた。終日雨で午後1時半から始まる「年金額改訂(減額)処分取消事件」をです。それは全日本年金者組合山形県本部の呼びかけで、鶴岡から3人で県内各地から計30数人いた。

▲裁判長ら3人・開廷と開廷時には傍聴者も院内にいる者全員が起立して挨拶するものだった。裁判官と同じ黒の法服を着た書記官という人が裁判官の1段下に1人おり、原告・弁護士・被告の間を取り次ぐ仕事をしていて、終わって裁判記録を作るんだとのこと。

▲読者の記憶にあると思うが、毎年年金引き下げられているなか、昔の恩給時代の分がこつそり引き去られた。これらを取り戻そうと全国で取り組まれたの